

特集

コロナ禍での 看護管理者の 振り返りを通じた 「癒し」と「許し」

看護管理者はコロナ禍において、さまざまな倫理的な苦悩を抱えてきました。しかしその渦中では目の前の課題への対応に追われ、それらの苦悩に目を向けることができないまま、「これでよかったのだろうか」という悩みを今も持ち続けている看護管理者の方々は少なくないでしょう。

そこで本特集では、米国で早くから看護における倫理の重要性を研究してきたキャサリン・ブラウン-ザルツマン氏を囲み、コロナ禍を経験した看護管理者たちが自らの経験を共有し、対話した座談会を中心に、コロナ禍での看護管理者の倫理的苦悩を検討します。

本特集を通じて、1人ひとりの経験を振り返り、追体験しながら、癒され、自分自身を許し、前に進むきっかけを得ていただければ幸いです。

倫理的苦惱

